

会議録（要点記録）

会議名称	令和6年度 第2回小金井市精神保健福祉連絡協議会		
開催日時	令和6年11月14日（木）9：00～9：46		
開催場所	市役所第二庁舎 801会議室		
出席者等	小高会長、有泉委員、渡部委員、坂上委員、牧野委員、執行委員、小椋委員（欠席）、鈴木（絵）委員、山岡委員、石川委員、鈴木（澄）委員、藤原委員、大澤委員 事務局：自立生活支援課長、相談支援係長、相談支援係主事		
傍聴の可否	可	傍聴者数	1名
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 目標の進捗状況について（「地域移行支援」の支援状況の報告） (2) 第2期小金井市精神保健福祉連絡協議会の成果物について (3) その他 3 次回の開催日について 4 閉会		
会議結果	1 開会 初参加である渡部委員より挨拶。 2 議題 (1) 目標の進捗状況について（「地域移行支援」の支援状況の報告） ◎事務局 概要の報告。 今年度、地域移行支援を利用していた方、利用している方は現段階で6名。昨年度から引き続き利用者もいる。表の一番上に通し番号を附番しそれに沿って説明。 1番から3番は既に今年退院。 1番、平成31年1月から救護施設に入所していたが、その直前、平成29年1月から平成31年1月まで入院。7月にグループホームに入居し、現在は就労継続支援B型に通所し生活中。 2番、平成30年5月から6年以上入院していた。今年7月にグループホームに入居。日中は、就労継続支援B型に通所し生活中。 3番、今年1月に入院。地域移行支援を利用しグループホームへ退院を目指そうとしていた矢先、本人が急に方針転換され、入院前の自宅に戻った。地域移行支援としては、十分に支援できなかったというケース。 4番から6番は退院支援継続中。 4番、グループホームへの退院を目指している。 5番、昨年末に入院、今年5月から退院支援が始まり、複数のグループホームを体験利用。間もなくグループホーム入居予定。		

6番、8年入院。地域移行支援の利用手続、事業所選定等に時間がかかっていたが、10月に利用を開始した。

最後に、6名とは別に50代男性を紹介。障害福祉サービスとしての地域移行支援は利用していなかったが、ケースワークによる支援で、平成28年に入院、7年9か月の長期入院を経て退院まで至ったという方。

表にない方で、1年以上入院されている方で地域移行支援を利用するために、実際、今週動き出した人もおり、今後の協議会等で報告できる見込み。

【質疑応答】

◎会長 3番の支援経過をもう少し詳しく。

◎事務局 本人、家族とも独居による自立を目指して退院前カンファレンスを行ったが、一転して本人がグループホーム利用を希望した。入院を継続して地域移行支援が開始したが、もう一度希望が変わり、最終的に自宅に退院となった。年齢的に40代なので独居による自立のチャンスは十分にあったものの、一度遠のいてしまったとみている。

◎委員 グループホームは、通過型、滞在型どちらを選ぶなどの傾向は見られるか。

◎事務局 1から3番は通過型に退院、4から6番も通過型への退院を目指している、あるいは、もう入る予定。

◎委員 すると、2年ぐらいで独り暮らしとかを目指す方がほとんどか。あるいは家族と同居か。

◎事務局 こちらの方々に関しては、全員単身を目指すような形で支援している。家族がいないか高齢であるため、基本的には皆独り暮らしを目指している。

【今後の対応】

・第3回で最終評価を行う。
(2) 第2期小金井市精神保健福祉連絡協議会の成果物について
◎事務局 第1回協議会で「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築について」を議題とする協議の中で、入院患者向けのリーフレットは作れないかという意見が上がった。これを受け、作成に向けこの間、部会において3回協議した。

第1回部会では、資料2-1のとおり、チラシの配布対象者や目的等の概要について協議。

第2回部会で、資料2-2のとおり、委員が作成した素案を基に具体的な内容について協議。

2回で素案を固める予定だったが、資料2-3のとおり、9月25日に第3回部会を臨時に開催し、内容のほか、色やレイアウト等の詳細について改めて協議、その結果を踏まえて微修正したのが資料3である。

今期の協議会の成果物として、長期入院患者へ配布するリーフレットを作成するということが1点目。

リーフレットの内容やレイアウト等全般について、意見があれば聞きたいのが2点目。A3で作ったが、A4を2つ折りなど、大きさについても意見が欲しい。事務局としては、病院とかに置いておいて、気づいた方に見てもらおうというような場合だと、大きいほうが目立つのかと考え、第1案としては、大きい形で配布した。

なお来年度に本格的に印刷して配る予定だが、その前段で、今年度は小金井病院と武蔵野中央病院に実験的に配らせていただきたく協力願う。

●1点目は意見なく了承された。

●2点目については次のとおり。

【質疑応答】

◎委員 どのような対象に配布予定か。

◎事務局 小金井市の方が入院している病院に配る予定。

◎委員 外来のところに置いておくのか、それとも病棟に置くとか、あるいは、個々の小金井市に住所のある方に配るのか。

◎事務局 退院に向けての話を患者に伝えるだけでも、場合によっては精神状態に影響を及ぼすと思う。そのため実務は病院ソーシャルワーカーに相談させていただきたい。

◎委員 入院している患者は小金井市に住所がある方たちに一斉にということか。

◎事務局 そのあたりも病院側と相談させていただきたい。

【意見聴取】

- ・振り仮名を振るとよい。
- ・当事者、家族会の方に見てもらおうとよい。
- ・以前他自治体の事業に協力して精神障害者を対象としている主要な事業所に依頼をして、支援職員の写真や、同意を得たうえで実際の利用場面などを載せて、イメージとしてレストランのメニューのようなパンフレットを作成したことがあるので参考にできないか。

- ・言葉が少し硬い。

- ・文字が多い。

- ・一番伝えたいメッセージが何なのかというのを絞ったほうがいい。

- ・「措置入院」「小金井市で生活していた皆様へ」「どこで暮らせるのだろう」「一緒に考えてくれる人はいないかな」の表現は心配な気持ちが浮かんでくる印象を受けたので、表現を工夫すべき。

- ・1枚目の困っている顔が前面にあるのは、不安を感じさせてしまうのではないか。

- ・措置入院の相談先は実務上、病院職員が行っているので一番下の選択肢（保健所）を削除し、病院の中で相談できる場合・相談しにくい

	<p>場合で作成するのはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用料の表記については一定検討が必要。 ・表紙の「小金井市で生活していた皆さまへ」という文字よりイラストに視線が向くので、他自治体援護の方からも電話が多くかかってくるのではないか。 ・発行元の表記にあまり面積を取らなくていいのではないか。 <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族会、当事者に見てもらい意見を聴取する。 ・次回の協議会で意見を踏まえた案を再度作成し検討する。 <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回開催は令和7年2月12日（水）14時から 場所 市役所西庁舎第5会議室
提出資料	<p>資料1 「地域移行支援」の支援状況</p> <p>資料2-1 第1回小金井市精神保健福祉連絡協議会 部会 会議録</p> <p>資料2-2 第2回小金井市精神保健福祉連絡協議会 部会 会議録</p> <p>資料2-3 第3回小金井市精神保健福祉連絡協議会 部会 会議録</p> <p>資料3 長期入院患者向けリーフレット（案）</p>